

# 平成 27 年 長崎年表

**1月5日** 市は証明書発行などを受け持つ市民課の窓口業務の一部を民間事業者に委託し、社員約 50 人が業務を開始した。

**1月6日** 市消防局は 2014 年の火災、救急の発生状況を公表した。出火件数は 110 件で 1953 年以降最少だったが、救急出動は救急業務を始めた 1949 年以降最も多い 2 万 3640 件だった。

**1月11日** 12 日の成人の日を前に、県内各地で成人式が行われた。長崎市では、本年 3 月末で閉鎖する市公会堂で成人式が行われ、約 2,900 人の新成人が集まった。市内の新成人は、昨年より 90 人少ない 4,092 人。

**1月13日** 市議の 2009 年度政務調査費の一部に不適正な支出があったとして、長崎地裁は当時の市議 2 人に計約 126 万円を返還するよう命じる判決を言い渡した。

**1月16日** 政府は 2016 年の世界文化遺産登録を目指す「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」を、国連教育科学文化機関（ユネスコ）に推薦することを閣議了解した。

**1月16日** 国の文化審議会は、長崎市の手熊、柿泊両町に伝わる節分の行事「モットモ」を、選択無形民俗文化財に選択するよう文化庁長官に答申した。

**1月19日** 市と NTT 西日本長崎支店が、災害時に被災者が無料で利用できる特設公衆電話を市内の避難所に設置する協定書を結んだ。

**1月22日** 新大工町地区市街地再開発準備組合が、再開発計画の概要やコンセプトを発表した。最短で 2018 年度ごろの完成を目指す。

**1月23日** 長崎・広島両市は、東京の在日米国大使館でキャロライン・ケネディ大使と面会し、オバマ大統領の被爆地訪問を求める要請文を提出した。

**1月26日** 県内のサッカー、ラグビーの協会関係者らでつくる「(仮) 茂里町スタジアム」プロジェクト実行委員会が、市中部下水処理場が廃止された跡地にフットボール専用スタジアム建設を求める約 10 万人分の署名を市長に提出した。

**1月29日** 市が進めてきた西坂公園（西坂町）の再整備が完了した。「日本二十六聖人殉教記念碑」の修復作業

などが行われた。

**1月30日** 浜市商店街振興組合は、再開発構想の具体化に向けた「浜町地区市街地再開発準備組合」を設立したと発表した。

**1月30日** 国土交通省は、2014 年の港湾別のクルーズ船寄港回数などを発表した。長崎港は過去最多の 75 回の寄港があった。

**1月31日** 県が長崎魚市跡地（尾上町）に整備する新県庁舎の起工式が開かれた。2017 年 9 月完成予定。

**1月31日** 長崎・佐世保・雲仙の 3 市が福岡市に開いていたアンテナショップ「キトラス」が、物販の不振などにより閉店した。

**2月2日** 市立小学校 6 年の女子児童が 2013 年に自殺した問題で、市教委設置の外部調査委員会はいじめと自殺の関連性があるとした報告書を市教委に提出した。

**2月4日** 市は、市内に生息する約 400 種の外来種をまとめた「長崎市の外来種リスト」を全国の中核市では初めて作成した。

**2月5日** 被爆者 5 団体は、被爆地拡大などの政府要望事項の前進が見られないとして、市長に協力体制の強化を要望した。

**2月7日** 2005 年 4 月に開館した県美術館（出島町）の入館者数が 400 万人を突破した。

**2月9日** 高齢者や若者、女性の県内就職を支援する県総合就業支援センター（川口町）の開所式が行われた。

**2月9日** 長崎原爆被災者協議会と被災協・被爆二世の会・長崎が市役所を訪れ、被爆 2 世の実態調査や健康診断の充実を求める要望書を市に提出した。

**2月12日** 日本赤十字社や赤十字国際委員会（ICRC）の幹部らが来崎し、爆心地での献花や被爆者の体験を聞くなどした。また、市長と面談し、核兵器廃絶に向け連携した取り組んでいくことを確認した。

**2月13日** 市は、平成 27 年一般会計当初予算案を発

# 平成 27 年 長崎年表

表した。4月に統一地方選があるため骨格予算となるが、被爆 70 周年記念事業や世界遺産登録推進、まちづくり事業など総額で約 2142 億円となる過去 3 番目の規模となった。

**2月 16 日** 行政と市民が共にまちづくりを進めるための方向性や役割分担を定めた長崎市自治基本条例の検討委員会が会合を開き、まちが目指すべき将来像を示し、まちづくりの原点となる条例の素案をまとめた。

**2月 18 日** 爆心地から約 700m にあり、原爆で在校生約 1300 人が犠牲となった市立山里小学校の児童らが、平和の想いを届けようと市内 14 の小学校まで「平和大行進」を行った。

**2月 19 日** 中国の春節（旧正月）に合わせて開かれる長崎ランタンフェスティバルが 3 月 5 日までの日程で開幕した。今年のメインオブジェは、過去最大級の高さ 10m の「九羊啓泰」。

**2月 19 日** 県教委は、皓台寺（寺町）に関係する江戸時代から伝わる文書など 28 点の「皓台寺文書」を県の有形文化財に指定した。

**2月 19 日** 市議会の 2 月定例会が 3 月 13 日までの日程で開会した。市長は市政方針演説で中心市街地活性化など 13 の重点プロジェクトの推進のほか、被爆 70 周年の節目にあたり継承と発信の決意を表明した。

-----

**3月 4 日** 県特産品のカステラ 1 万本が、長崎港と韓国・釜山港を結ぶ定期コンテナ航路で初めて輸出された。

**3月 5 日** 長崎ランタンフェスティバルが閉幕した。期間中（15 日間）の人は過去 2 番目に多い約 92 万人で、昨年を上回った。市内の主要 15 宿泊施設の平均稼働率は 91.6% で、昨年の 84.0% から大きく伸びた。

**3月 7 日** 天神町で民家など 6 棟が全焼し 1 人が死亡する火災が発生した。市消防局は 9 日、器具の点検を見落とししていたために、現場近くの消火栓が使えず初期消火ができなかったことを明らかにして謝罪した。

**3月 8 日** 幕末から明治初期にかけてのキリシタン弾圧「浦上 4 番崩れ」で津和野藩（島根県）に流されて殉教した浦上村の信徒 37 人の列聖運動を周知するシンポ

ジウムが開催された。

**3月 10 日** 長崎みなとメディカルセンター市民病院は、ラオスの私立病院「ラオアセアン病院」と友好交流協定を結んだ。市民病院と海外の病院との協定は初。

**3月 12 日** 市と長崎純心大学は、活力ある地域社会の形成、発展に寄与することを目的に、幅広い分野で協力する包括連携協定を結んだ。

**3月 12 日** 韓国政府から、元長崎市長の故本島等さんに外交部長官（外務大臣）表彰が贈られた。朴鎮雄在福岡総領事から遺族に表彰状が手渡された。

**3月 13 日** 定例長崎市議会は、平成 27 年度一般会計初予算案のほか、交流拠点施設の建設を検討している JR 長崎駅西側の用地取得契約を可決した。

**3月 14 日** 市が 2014 年度から始めた家族の被爆体験を受け継ぐ取り組みの初めての発表会が開かれ、被爆 2 世や 3 世の 4 人が、両親や祖父母の被爆体験を語った。

**3月 16 日** 市は台湾に医師らを派遣し、現地の被爆者の健康相談事業（17 日～19 日）を始めた。台湾での健康相談事業は初めて。

**3月 17 日** 県内のほとんどの公立中学校で卒業式が行われた。2014 年度末で市立池島中学校が休校、神浦中学校が閉校となる。県教委によると、本年度の県内の公立中学校の卒業生は約 1 万 4000 人。

**3月 19 日** 県内の多くの公立小学校で卒業式が行われた。県教委によると、本年度の国立や私立も含めた県内の卒業生は約 1 万 2800 人。

**3月 19 日** 公示地価（2015 年 1 月 1 日時点）が発表され、市の商業地の対前年平均変動率が 1.1% となり、23 年ぶりにプラスに転じた。

**3月 20 日** 長崎ペンギン水族館に新しくヒゲペンギン 7 羽が加わり、歓迎セレモニーが行われた。同水族館の飼育種は世界最多の 9 種類となった。

**3月 23 日** 長崎・広島両市長が岸田外相と会談し、4 月に米国で開幕する核不拡散条約（NPT）再検討会議に向け、オーストリアが賛同を呼びかけている核兵器禁止の文書に日本も賛同するよう要請した。

# 平成 27 年 長崎年表

**3月24日** 市が刊行した「新長崎市史」(全4巻)の普及版「わかる!和華蘭」が完成し、普及版検討委員長の福田正弘長崎大教育学部教授らが市長に報告した。

**3月27日** 市は2014年の観光統計を発表した。観光客数は前年比3.8%増の約630万7000人で過去最多となった。観光消費額は約1243億円(前年比3.4%増)で過去最高となった。

**3月31日** 岡田副市長が退任、4月1日付けで消防庁予防課特殊災害室長に就任する。

**3月31日** 1962年に建設された長崎市公会堂が閉館し、53年の歴史に幕を下ろした。

-----

**4月3日** ロシア軍が大規模演習の際に核兵器の先制使用の可能性を想定していたことに対し、市はプーチン大統領あてに抗議文を送付した。

**4月4日** 核不拡散条約(NPT)再検討会議を前に、同会議の議長予定者タウス・フェルキ氏(アルジェリア外相顧問)が、爆心地で献花したほか市長と面談した。

**4月7日** 長崎大核兵器廃絶研究センター(RECNA)は、日本・韓国・北朝鮮の北東アジアの非核化に向けた政策提言書を発表、10日外務省に提出した。

**4月10日** 市は10月1日を期日とする国勢調査に向け長崎市実施本部を統計課内に設置した。

**4月12日** 定数14に対し18人が立候補した県議選長崎市選挙区の投票率は47.20%で、前回の52.69%を大きく下回った。長崎市区で二重投票させるミスがあった。

**4月15日** 市と活水女子大は、健康増進や文化芸術活動など幅広い分野で協力する包括連携協定を結んだ。

**4月19日** 市長・市議選が告示され、市長選では現職以外に立候補者がなく無投票で3選が決まった。市長選での無投票は戦後初。

**4月22日** 市選管は若者の投票率向上に取り組んでいるNPO法人らとともに、市内の2大学で投票を呼び掛ける啓発活動を行った。

**4月25日** 市は、ゴールデンウィーク中の観光客受け入れ対策の一環として、JR長崎駅かもめ広場に世界遺産案内所を開設した。

**4月25日** 長崎港一帯で、国内外の帆船が集まる「長崎帆船まつり」が開幕し、国内最大級の帆船「日本丸」や韓国、ロシアの計6隻が入港した。29日までの期間中に、昨年を上回る約21万8000人の人出があった。

**4月26日** 市議選は、定数40に対し54人が立候補して行われた。投票率は45.77%で、戦後最低だった前回の53.30%よりさらに下回った。

**4月27日** NPT再検討会議が、米国・ニューヨークの国連本部で開幕した。開幕前日には、渡米した被爆者や世界各国のNGOが核兵器廃絶を訴えて行進した。

**4月30日** 29日夜から30日未明にかけての激しい雨により、塩浜町で民家の石垣が崩落する被害があった。4月の3時間降水量としては、観測史上最も多い49.5mmだった。

-----

**5月1日** NPT再検討会議において長崎市長が演説し、NPT体制の形骸化の懸念を表明、各国首脳に対し核兵器廃絶の前進を訴えた。また、4日にはワシントンで米政府高官と相次いで会談し、大統領の被爆地訪問を働きかけた。

**5月2日** NPT再検討会議に合せ訪米していた長崎の被爆者でつくる合唱団「ひまわり」が、現地で行われた核軍縮のためのコンサートイベントに出演した。

**5月4日** 政府は、ユネスコ諮問機関の国際記念物遺跡会議(イコモス)が、「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」について、世界文化遺産に登録するよう勧告したと発表した。また、勧告では、名称のうち「九州・山口と関連地域」を、「製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業」に変更するよう求めている。

**5月7日** 稲佐山中腹の湊神社から山頂展望台を結ぶ長崎ロープウェーが、駅舎の耐震補強工事のため運行を休止した。(平成28年2月5日まで)

**5月7日** NPT再検討会議が開催されている国連本部で、「ナガサキ・ユース代表団」の長崎大の学生が討論

# 平成 27 年 長崎年表

会を開き、海外のNGO関係者らに平和教育の重要性などを訴えた。

**5月8日** 市は大型連休期間中（4/25～5/6、12日間）の観光客数を発表した。グラバー園など8か所の主要観光地の人出は約17万8000人で、昨年より約1万7000人多かった。海外クルーズ船の寄港（9隻）や世界遺産登録の勧告が影響したと思われる。

**5月8日** 長崎大核兵器廃絶研究センター（RECNA）は、国連本部でNPT再検討会議の関連フォーラムを開催し、北東アジア非核兵器地帯構想について提言した。

**5月9日** 県平和活動センターと県原水禁が平和公園で実施している「反核9の日座り込み」が、1979年3月の開始以来、通算400回を迎えた。

**5月12日** 市は、出島の復元整備事業に伴う発掘調査で、出島と対岸を結ぶ「表門橋」の橋詰の一部が新たに見つかったと発表した。橋詰の幅を示す遺構とみられる。

**5月13日** 市議会は臨時会を開き、議長に毎熊政直氏、副議長に西田実伸氏を選出した。また、各常任委員会、議会運営委員会の正副委員長を選任した。会派は改選前の8会派から7会派になった。

**5月16日** 平和宣言文の起草委員会の初会合が開かれた。委員には被爆2世団体の代表や大学生らが新たに加わり、被爆から70年の節目の年となる宣言について議論が交わされた。

**5月21日** 原爆死没者名簿167冊の風通しが国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館であった。名簿には昨年7月末までに死亡が確認された16万5425人の氏名や死亡年月日などが記載されている。

**5月28日** 市は2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップ（W杯）についてキャンプ地招致を目指す考えを明らかにした。

-----

**6月2日** 平和祈念式典で新たに奉安される原爆死没者名簿の記入作業が市役所で始まった。被爆2世の筆耕者2人によって、昨年8月以降に亡くなった約3,500人の被爆者の名前が名簿に記入される。

**6月2日** 国の交付金を活用したプレミアム付き商品券の一般発売が始まった。市内の5商工団体により15%のプレミアムが付いた商品券が発行された。

**6月5日** 市民団体「高校生平和大使派遣委員会」は、核兵器廃絶を求める署名を国連欧州本部（スイス・ジュネーブ）に届ける高校生平和大使22人を発表した。

**6月17日** 長崎大は、坂本キャンパスに設置を検討している感染症研究の高度安全実験施設（BSL-4）の整備について、県や市と基本協定を締結した。

**6月17日** 市議会の6月定例会が、7月8日までの日程で開会した。市長が3期目の施政方針演説で自治基本条例制定の考えや交流人口の拡大などの取組みについて表明した。

**6月22日** 長崎大核兵器廃絶研究センター（RECNA）は、世界の核弾頭の数を推計し、9か国で約1万5700発とする研究結果を発表した。

**6月27日** 被爆70年にちなみ、市内の小中学生ら約400人が、平和への祈りを込めた巨大壁画「キッズゲルニカ」を共同で制作した。壁画は8月6日から12日まで、原爆落下中心地の下の川斜面に展示された。

**6月28日** 「ながさき平和大集会」が開かれ、今年の秋月平和賞は原爆投下前の松山町の復元地図製作などに尽力した被爆者の内田伯さんに贈られた。また、新設の秋月ユース平和賞は、中・高校生各1名が表彰された。

**6月30日** 市は、米国立公文書館において原爆関連資料の調査を行った成果について、写真約1100点、映像約40点を収集したと発表した。

-----

**7月1日** 世界文化遺産を目指す「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の構成資産「大浦天主堂」の拝観料引上げられ、「明治日本の産業革命遺産」の構成資産「旧木型場」内にある三菱重工長崎造船所史料館の見学が有料となった。

**7月1日** 世界文化遺産を目指す「明治日本の産業革命遺産」の構成資産の一つ三菱重工業長崎造船所の「ジャイアント・カンチレバークレーン」の3Dデジタル映像が、英国スコットランド政府から同造船所に贈られた。

# 平成 27 年 長崎年表

**7月2日** 端島がロケ地となった映画「進撃の巨人」の完成報告記者会見が、同島において監督や主演者が出席し開かれた

**7月5日** ドイツ・ボンで開催中のユネスコ世界遺産委員会で、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の世界文化遺産への登録が決まった。

**7月9日** 被爆70周年を記念したフレーム切手「被爆70年 長崎から平和への祈り」が、県南・県央地区の郵便局などで発売が始まった。

**7月9日** 市と議会で作る原子爆弾被爆者援護強化対策協議会は、被爆地域を爆心地から一律12kmに拡大するよう厚生労働省などに要望した。国への拡大要望は2001年度以来14年ぶりとなる。

**7月14日** 市教委と福井県立恐竜博物館は、長崎半島西海岸にある約8100万年前（白亜紀後期）の三ツ瀬層から、ティラノサウルス科の大型種としては国内初となる歯の化石2点を発見したと発表した。

**7月23日** 299人の死者・行方不明者を出した長崎大水害から33年を迎え、市内の各地で追悼行事が行われた。市は午前11時にサイレンを鳴らし、市民が黙とうをささげ犠牲者の冥福を祈った。

**7月23日** 第86回都市対抗野球大会に6年ぶりに出場した長崎市代表の三菱重工長崎は、浜松市のヤマハと対戦したが敗退し初戦突破はならなかった。

**7月26日** 台風12号の接近により26日の「ながさきみなとまつり」が中止になるなど、観光や交通機関に影響が出た。

**7月28日** 原爆資料館の展示室更新整備において、原子爆弾（ファットマン）模型が、これまでの濃い緑色から、本来の色に近い黄色に塗り替えられ公開された。

**7月28日** 市が設置した長崎原爆遺跡調査検討委員会は、爆心地（松山町）を国指定史跡として新たに登録をめざすことを決めた。

**7月29日** いじめを受けていた市内小学校6年生の女子児童が2013年に自殺を図り、その後死亡した問題で、市教委は市長に具体的な対応策を盛り込んだ報告書を提出した。

**7月30日** 桜町公園内に建立されている歌人 斎藤茂吉の歌碑周辺が整備され、案内板やイスなどが設置された。

-----  
**8月1日** 滋賀県で開かれている第39回全国高校文化祭で、放送部門の朗読部門で県立長崎西高2年の坂本薫さんが優秀賞を獲得。自然科学部門の研究発表・化学部門では県立長崎北高理科部が優秀賞に選ばれた。

**8月4日** 市長と議長は県知事と面談し、県庁舎跡地の整備方針の早期決定と、廃止された公会堂に代わるホール機能を設けることなどを要望した。

**8月5日** 市の被爆70周年事業「世界こども平和会議」が2日間の日程で開幕した。世界122か国・地域の子どもたちと長崎の中学生らが参加し、平和や核について意見交換などを行った。

**8月6日** 旧城山国民学校（現・市立城山小）の被爆校舎の一部を利用した平和祈念館の展示内容がリニューアルし公開された。

**8月7日** ローマ法王庁から被爆70周年メッセージが、世界的指揮者の西本智実さんを通じ、市長に届けられた。

**8月8日** 平和祈念式典の「献水」に使用する水の採水が行われ、「平和の泉」（松山町平和公園）では、式典で被爆者や遺族代表と献水をする青少年代表3人が交代で水をくんだ。また、夜には原爆犠牲者を追悼する「平和の灯」が平和公園であった。県内外の子どもたちが平和の願いを書いた約5000個のキャンドルが灯された。

**8月9日** 平和公園で営まれた平和祈念式典には、安倍首相など政府・国会関係者、国連や国際赤十字など国際機関のほか、核保有国を含めた過去最多の75か国地域の駐日大使などが参列した。式典では、市長による平和宣言のほか、被爆者代表として長崎原爆被災者協議会長の谷口稜暉さんが「平和の誓い」を読み上げた。また、この1年間に死亡が確認された被爆者3,373人の原爆死没者名簿4冊が納められ、奉安者は16万8767人となった。熱中症対策として、会場にはドライミストが新たに取り付けられたほか、ブリックホール会場には献花台などが設置された。

# 平成 27 年 長崎年表

**8月11日** 「長崎高島水産センター」(高島町)は、県が完全養殖を目指して種苗生産を試験的に委託したクロマグロの稚魚を出荷した。

**8月11日** 長崎市議会の政務調査費返還請求訴訟で、2010年度当時の市議49人に計約3190万円を返還させるよう市長に命じた判決が長崎地裁で言い渡された。

**8月12日** 低気圧に湿った大気が流れ込んだ影響で記録的な大雨となり、市内では外海地区の一部に避難勧告が出されたほか、各地で床上・床下浸水が発生した。また、JR長崎線も運休や遅れが生じた。

**8月12日** 高校生平和大使の22人を外務省の「ユース非核特使」に委嘱する伝達式が長崎市役所で行われた。約16万4千人分の署名をスイス・ジュネーブの国連欧州本部に届けるほか、軍縮会議でのスピーチが予定されている。

**8月25日** 台風15号が接近し県内は暴風域に入った。激しい雨と強風などにより、JRや船便の運休など各交通機関に影響があった。また、一部の観光施設等も臨時休業となった。

-----

**9月1日** 市議会の9月定例会が、9月18日までの日程で開会した。また、市職員の不祥事や事務処理のミスが相次いでいるとして、市議会は市長に再発防止の申し入れをした。

**9月4日** 市は軍艦島(端島)の上陸者数やグラバー園の入園者が大幅に伸びており、世界文化遺産登録の効果が表れていると発表した。軍艦島の上陸者数は、2009年4月の上陸解禁以降、80万人を突破した。

**9月8日** 被爆者援護法の規定が、在外被爆者にも適用されるかが争われた訴訟で、最高裁は医療費を全額支給すべきという判断を示した。同様に係争中の長崎訴訟も終結に向かう見通しとなった。

**9月12日** 浜市商店街(浜町)にある無料休憩所「浜んまちガーデン」について、市と浜市商店街振興組合が連携し、外国人観光客にも利用しやすいようリニューアルした。

**9月13日** 戦時中、捕虜となった連合軍兵士を收容し

た福岡俘虜收容所第2分所(香焼町)の跡地で、死亡した4か国の捕虜73人の追悼碑の除幕式が行われた。追悼碑は市民有志による建立委員会によって建てられ、式には元捕虜や遺族など約100人が参列した。

**9月17日** 軍艦島(端島)の炭坑の様子や暮らしぶりを映像で紹介する「軍艦島デジタルミュージアム」が、松が枝町にオープンした。

**9月25日** 長崎市出身のシンガーソングライター福山雅治さんが8月29日、30日の二日間に、稲佐山公園野外ステージで開いたコンサートの直接的な経済効果が17億8千万円であることが、長崎経済研究所の試算でわかった。

**9月26日** 今年、長崎港に寄港したクルーズ船が延べ100隻となった。特に中国から就航する船の割合が6割を占め増加傾向をけん引している。平成27年は年間で131隻が寄港した。

**9月27日** 1996年4月に開館した長崎原爆資料館(平野町)の入館者数が1500万人を達成した。

**9月27日** ユネスコの諮問機関である国際記念物遺跡会議(イコモス)が、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の現地調査を始めた。10月3日までの予定で長崎・熊本両県にある14の構成資産を調査する。

**9月29日** 市と大学、企業が連携して実施された2つのプロジェクトが今年度のグッドデザイン賞に選ばれた。端島炭坑(軍艦島)を3DのCGで詳細に記録した「軍艦島3Dプロジェクト」と、雨天時の長崎を楽しめる地図を作製した「雨の足音プロジェクト」の2件。

-----

**10月1日** 市の副市長に加藤邦彦氏が着任した。任期は4年。前任は国土交通省総合政策局官民連携政策課政策企画官。

**10月1日** 三菱重工業は、同社長崎地区の商船建造事業を100%出資の二つの会社に分社化した。船舶建造事業を担う「三菱重工船舶海洋株式会社」と、船体ブロック製造事業を担う「三菱重工船体株式会社」が営業を開始した。

**10月5日** マイナンバー法が5日施行され、ニュース

# 平成 27 年 長崎年表

を目にした市民から市民課に問い合わせが相次いだ。

**10 月 6 日** 2000 年に開館した遠藤周作文学館（東出津町）の入館者が 45 万に達した。

**10 月 6 日** 姉妹都市の米・セントポール市の公式訪問団が来崎、9 日まで滞在し市民との交流を図る。1955 年に日米の自治体で初めて姉妹都市提携を締結、今年で 60 周年を迎える。

**10 月 7 日** 長崎くんちが 9 日までの日程で始まった。3 月末に閉館し解体が決まっている公会堂（魚の町）前広場でも奉納踊りが披露された。

**10 月 9 日** 夜景を観光に生かす取り組みを報告する「夜景サミット」が神戸市で開かれ、長崎市は札幌市、神戸市とともに「日本新三大夜景都市」として選出された。期間は 2018 年 9 月末まで。

**10 月 11 日** 長崎電気軌道の路面電車が桶屋町の分岐点付近で脱線した。負傷者はなかったが、一部路線の運休が続いた。

**10 月 19 日** 県庁移転後の跡地に市役所新庁舎建設を求めている市民団体が、是非を問う住民投票条例の制定を目指し、署名活動の準備を進めていることを発表した。

**10 月 21 日** 市は 2016 年度から 5 年間の一般会計の中期財政見通しを発表した。新庁舎建設などの大型事業が予定されており、2020 年度末の市債残高は過去最高の見通しとなった。

**10 月 21 日** 「高度安全実験（BSL - 4）施設の設置を計画する長崎大が県、市と課題を検討する連絡協議会の 2 回目の会合があった。大学からは、坂本キャンパスに設置する優位性について説明があり意見が交わされた。

**10 月 23 日** くい打ち工事のデータ偽装問題で、市は脇岬町の水処理施設が、問題のあった業者が施工していたと発表した。市の調査では異常は見つかっていない。

**10 月 24 日** 原爆犠牲者を慰霊し、恒久平和の実現を訴える「市民大行進」が平和公園周辺で行われ、約 3000 人が参加した。被爆 70 周年を記念して子供たちが平和のメッセージを結びつけた風船を飛ばした。

**10 月 30 日** バグウォッシュ会議世界大会を前に、約

20 か国のおよそ 30 人の若手研究者が参加し、ヤングバグウォッシュ会議が始まった。伊予島町のホテルを会場とし、2 日間の日程で議論が交わされる。

**11 月 1 日** 核兵器と戦争の廃絶を訴える科学者らの国際組織「バグウォッシュ会議」の第 61 回世界大会が長崎市で開幕した。5 日間の日程で、核兵器廃絶の具体的道筋などについて議論する。

**11 月 2 日** 市立淵中に平和資料室「希望館」が開館した。被爆の痕跡を色濃く残す「淵国民学校遺壁」などの遺構や、被爆前後の校舎の写真パネルなどを展示。

**11 月 3 日** 親和銀行が、国際クルーズ船が寄港する長崎港の松が枝国際ターミナルに外貨両替機を設置した。ドルやユーロ、元など 8 種類の外貨を円に両替できる。

**11 月 4 日** 「出島表門橋及び周辺整備デザイン検討会議」の最終会合が開かれた。出島と対岸を結ぶ表門橋の完成が、橋の遺構発掘などにより遅れが生じ、2017 年末になる見通しとなった。

**11 月 5 日** バグウォッシュ会議世界大会が最終日を迎え、長崎宣言を発表して閉会した。全体会議や 8 つの分科会に、35 か国・地域から 192 人が参加した。

**11 月 7 日** 九州で最も古い公立商業高の市立長崎商業高の創立 130 周年記念式典があり、生徒らが同校伝統のちょうちん行列で市内中心部を練り歩いた。

**11 月 9 日** 米国が原爆開発を推進した関連施設でつくる「マンハッタン計画国立歴史公園」について意見を交わすフォーラムが、米・ワシントンで開会し、長崎を代表して出席した朝長万左男長崎原爆病院名誉院長が、被爆地の思いを思いを反映させてほしいと訴えた。

**11 月 17 日** オーストリア・ウィーンの国連ビルに常設原爆展「核兵器のない世界へ」が開設された。長崎・広島両市が協力し運営する。国連機関での常設展はニューヨーク、ジュネーブに続き 3 か所目となった。

**11 月 20 日** 三和町の国道 499 号下に埋設している水道管が破損し、周辺の約 1500 世帯が最大 16 時間断水した。道路の陥没による交通規制の影響で、最大約 12 km の大渋滞が発生した。

# 平成 27 年 長崎年表

**11 月 27 日** 市議会は定例会を 12 月 16 日までの日程で開会した。本会議において、不適正な生活保護費の事務処理があったとして、2014 年度一般会計歳入歳出決算を全会一致で不認定とした。

**11 月 29 日** ギリシャ・オリンピアで採火され長崎に贈られた聖火「ナガサキ誓いの火」が、ブラジル・フレイロジェリオ市の「平和の鐘公園」に灯されることにことになり、平和公園の灯台において分灯式が行われた。

-----

**12 月 3 日** 大相撲冬巡業「長崎場所」が県立総合体育館（油木町）であった。横綱や地元出身力士ら約 150 人が出場し、ファン約 3600 人が集まった。長崎では 12 年ぶりの開催。

**12 月 4 日** 国土交通省は、九州新幹線長崎（西九州）ルートに導入されるフリーゲージトレインの開発が遅れ、当初予定の 2022 年度の全面開業が困難になったとする見解を明らかにした。

**12 月 7 日** 市と市旅館ホテル連合会は、大規模災害が発生した場合、ホテルなどで被災者を受け入れるための協定を結んだ。同連合会に加盟する 33 施設が対象となる。

**12 月 9 日** 2019 年のラグビーワールドカップ (W 杯) 日本大会のキャンプ地視察のため、スコットランドラグビー協会の最高経営責任者らが、長崎市内の施設を視察した。

**12 月 9 日** 長崎原爆を題材とした映画「母と暮らせば」の舞台となった長崎大医学部で山田洋次監督と土山秀夫元同大学長による特別平和授業があった。また同日、市内 2 か所の映画館で先行上映会が開かれた。

**12 月 10 日** 国指定史跡「出島和蘭商館跡」（出島町）の入場者数が、2006 年 4 月のリニューアル以降、400 万人に達した。

**12 月 16 日** 市議会は九州新幹線西九州ルート of 整備促進に関する意見書案を可決した。また、市議 35 人が「長崎新幹線整備促進議員連盟」を発足、設立総会を開いた。2022 年度の開業厳守を求める活動を強める。

**12 月 17 日** 2019 年ラグビーワールドカップ (W 杯) 日本大会に向けて、市や県ラグビー協会、経済団体などがキャンプ地誘致委員会を設立した。

**12 月 19 日** 共通番号制度のマイナンバーを記載した通知カードの返送が相次いでいることから、市は年末にかけて時間外も開庁して対応にあたることにした。

**12 月 25 日** 市は 2019 年ラグビーワールドカップ (W 杯) 日本大会に出場するスコットランドチームの事前キャンプ地に長崎市が選ばれたと発表した。

**12 月 25 日** 三菱重工業は、大型客船 2 隻を受注し、建造を進めていたが、1 隻目の納入が、予定していた 12 月から遅れることを明らかにした。延期は 3 度目となる。